

炉辺医話(8)1101 2001.8.6 提出

代替・補完・伝統医療

板橋中央総合病院血液浄化療法センター

阿岸鉄三

医療と医療類似行為

2001年6月号で、外気功について書きました。外気功に関心を持ち始めると、同じようで同じでないような似ているけど少し違うような医療類似の行為が沢山あることに気がつきました。大学に長年いて研究に関心のあった医師として、自分でときどき経験したことなのですが、例えば新しい医療技術などに興味を惹かれて文献などを検索するうちに、その周辺がどんどん広がって、以前にはその存在さえも気づかなかった医療技術にも関心が広がり収拾がつかなくなるがありました。そのようなことが外気功に興味を持ったときにも起こったのです。今

では、少し年月がたったので、ある程度整理された説明ができます。それらは、代替・補完・伝統、ときには民間医療などとも呼ばれるものです。代替は、9月号の炉辺医話にしたがえば、当代医療に替わるもの、補完は、当代医療を補うもので、伝統・民間は、そのままの意味が分かるでしょう。通常、近代・現代・当代医学・医療は、近代科学を基礎とすると表現します。近代科学は、ニュートン、デカルトらに始まる心身二元論にもとずくとされます。でも、ニュートンは、最後の錬金術師と呼ばれたりもするのです。正統とされる当代の医療だって、20世紀初めの米国で、それまでの伝統医療との正統派争いがあり、議会闘争があってロビイストの活躍により正統性を勝ち取っただけのものです。この世の正統性とは、そういったもののようです。

現実の世界をみると、どうも医療は大

大きく分けて、2種類の医療があるようです。一つは、狭義の医療で、政府などの国家権力に正統性が認められ、例えば、国家的な医療保険制度に組み込まれているものです。わが国では、医療保険制度に適用が認められていなければ、支払いがかさみ、實際上、十分な医療は受けられないでしょう。もう一つは、それ以外の今問題にしている医療類似行為です。わが国では、国（厚生労働省）が認めていない行為は正式には医療とは呼べないのです。でも、巷では結構人気があって、自費で支払って施療を受ける善男善女が絶えないのです。

いかがわしい医療とは？

これらはときに、いかがわしいと呼ばれたりします。外気功については、筆者は、外気功自体はいかがわしくないが、外気功師（士）には、ときにいかがわし

い人がいるようだといっています。では、いかがわしいとはなにを指しているのかという定義が、ある学会で問題になりました。ある人が、行為の見返りに過大なお金を要求することだといいました。筆者は、世界中には、世界経済を動かすほどの財産を貯めているといわれる宗教派があってもいかがわしいとはいわれていないと指摘しました。いかがわしいとは、お金のことばかりとはいえないようです。

多彩・重層化する医療

ところで、奇妙なことには、近代化の進んだ社会ほど、この医療行為の多様化、重層化が複雑に存在するという報告が沢山あります。米国でも、医療費の高騰が問題になっているいろいろな統計がとられました。市民の約50%が代替医療(米国では、一般的な呼び方)を受けた経験があるが、その約50%はかかりつけの医

師にそのことを話していないという報告もあります。それは、きっと低教育・低収入層の市民だろうと思ったら、逆に高教育・高収入層の人たちに代替医療を積極的にうける傾向が強いことが分かりました。それをうけて、1992年にNIH(わが国の厚生労働省の機能をする機関)にOffice for Alternative Medicine(代替医療事務所)を設置し、2001年にはNCCAM(National Center for Complementary and Alternative Medicine(国立補完代替医療センター)に格上げし、数十億円の予算がつけられています。実際に行われている手技は、カイロプラクティック・鍼・ヨガ・瞑想・バイオフィードバック・ハーブ療法などわが国でもお馴染みのものが多いのです。米国のドラッグストアへ行くと、補助食品としていろいろなビタミンが棚積みになっています。名前は違いますが、therapeutic touch

といわれてカルフォルニア州では医療保険の支払い対象になっているとされる手技は、実技を見ましたが、外気功と全く同じです。こうした代替・補完・伝統医療などと呼ばれる医療類似行為は、当然といえばその通りですが、世界中に存在するのです。わたしは、こうした行為は、医療の原点である癒し（2001年4月号炉辺医話）の能力を活性化する技術を提供するものと考えています。